

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO



創立：1980年(昭和55年)1月10日
 会長：泉 憲一
 幹事：亀井 直人
 クラブ委員長：山口 哲司
 例会日：毎週木曜日PM12:30～
 会場：ヒルトン名古屋

事務局：460-0008
 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
 TEL：052-211-3803
 FAX：052-211-2623
 MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1615回例会

～新世代のための月間～
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2013年9月19日(木) 晴 第11回

司会：広瀬弘幸会場委員
 斉唱：「四つのテスト」「それでこそロータリー」
 ゲスト：名古屋学院大学 経済学部教授 水野晶夫さん
 ビジター：パストガバナー 神戸政治さん
 あまRC 鈴木興左衛門さん
 名古屋守山RC 長瀬輝代之さん

副会長挨拶

長瀬憲八郎副会長

皆さんこんにちは。本日は挨拶を予期せず頼まれました。そんな日に限って義理の兄が例会にビジターとして参加させて頂いております。又、本日の卓話をして頂く名古屋学院大学の水野教授は私の息子の恩師であります。そんな方々を前にしてお話をする事になり、かなり焦っています。



さて、人間には危機を感じる能力があります。例えば、寒さを感じるとそれを回避することができ、凍死するのを防ぎます。しかし、人間は良いことよりも悪いことの方が記憶に残りやすいものです。人生には、良いことも悪いこともあります。悪いことは1つ位に気に留め、反対に良いことを3つ位思いだしながら日々暮らしていけば、皆幸せになると思っています。実はこの話は10月の職場例会で話そうと準備していたのですが、本日もお話をさせて頂きました。又せっかくなので義理の兄からもこの場をお借りして一言お話をさせていただきます。

パストガバナー 神戸政治さん挨拶

皆さん、こんにちは。いつも義弟がお世話になりありがとうございます。彼は妻の弟ですが小さい頃からよく知っており、宿題などを持ってきてはすぐに『答だけを教えて』と言うような子でした。そのため本日の挨拶も予期せずとは言え、先程のような挨拶で失礼いたしました。



幹事報告

亀井直人幹事

- 9月26日(木)19:00よりヒルトン名古屋 5階「銀扇の間」にてRACとの合同例会を行います。
- 11月2日(土)-4日(月)「ワールド・フード+ふれ愛フェスト」が名古屋和合RC主催で行われます。本年度の田中正規ガバナーのご希望により協力してほしいとのことで、理事会で各自チケットを購入しようと決まりました。1枚2,000円で200円がチャリティーに、1,800円が金券として使えます。1口2,000円以上のご購入をお願い致します。

出席報告

関谷俊征出席委員

会員64名 出席44名 (出席計算人数47名)

出席率 78.6%

9月12日は補填により 94.5%

ニコボックス

関谷俊征ニコボックス委員

- 名古屋瑞穂RCにお邪魔致しました。
 神戸政治さん 鈴木興左衛門さん 長瀬輝代之さん
 ・今度の日曜日19時～21時、東海TVのほこXたて番組の中で我社のドリルが出ますので一見して下さい。 岩田 吉廣さん
 ・9月17日は妻の誕生日でした。又、義兄がお世話になります。
 長瀬憲八郎さん
 ・9月20日は私の誕生日です。 近藤 雄亮さん
 ・今月、誕生月です。69歳となりました。 八木沢幹夫さん
 ・9月26日は私の誕生日です。54歳になりました。 大嶽 達郎さん
 ・9月20日は妻の誕生日です。 高木 勝さん
 ・敬老の祝、ありがとうございました。 森 恒夫さん
 ・ニコボックス委員になります。宜しくお願いします。
 酒井 俊光さん
 ・加齢道中の小生に対し、お祝いの言葉に兼ねて名菓のプレゼントを贈って頂きありがとう。 江口 金満さん
 ・各方面より米寿の祝いを頂きました。 山田 鎮浩さん
 ・9月は長月、夜長月の意と稲刈月ともいわれます。そして9月19日本日は中秋の名月、但し、今夜の名月はすばらしく同じ、きれいな月は8年後しか見られないとの事、天気も良さそうです。是非見て下さい。敬老のお祝ありがとうございました。 岩本 成郎さん
 ・大須RCの「ヒルウォーキングクラブ」の台湾の新高山(ニイタカヤマ)登山隊に入れて頂き、9月16日、無事登頂する事が出来ました。 吉木 洋二さん
 ・水野教授、卓話宜しくお願いします。 鈴木 淑久さん
 ・先週の例会を欠席致しました。 野崎 洋二さん
 ・癌の定期検診に行ってきました。結果オーライ、1ヵ月寿命が延びました。感謝!! 内田 久利さん
 ・やっと出張続きが一段落しました。山口委員長、休みがちでご迷惑かけました。 湯澤 勇生さん
 ・今年で11回目のハワイゴルフ合宿に行ってきました。田中宏さん、いつもいつもお世話になります。 堀 慎治さん
 ・先日、しっかりリフレッシュ休暇を頂きました。堀さん、楽しい時間をありがとうございました。 田中 宏さん

卓話

名古屋学院大学経済学部教授 水野晶夫さん

大学と地域との連携について ～名古屋学院大学事例を中心として～

名古屋学院大学では、2000年度の経済学部政策学科(現総合政策学科)の創設をきっかけに、商店街活性化をはじめとする地域連携活動を推進してきました。活動の中心には、学生サークルが運営するコミュニティカフェ「マイルポスト」があり、その活動と連携するPBL(Project-Based Learning)型のいくつかの授業科目が開講されています。



大学における学生による地域連携活動には2つの目的があります。1つ目は、活動を通じて学生が実践力をつけること、もう1つは、学生を育ててもらっただけでなく、地域から評価して頂けるような地

域貢献をし、恩返しをすることです。

講義室での授業では、知識や理論を学ぶことができますが、現実の社会問題と向き合った時に、自分たちで答えを探していかなければなりません。調査や分析、地域の方々からのアドバイスなどをうけ、試行錯誤しながら、学生たちは問題解決に近付いていきます。そして、そのプロセスや成功体験を通じて、実践力を向上させます。

他方、学生たちのバイタリティーや感性は、地域になかった新しい力となって、問題解決とともに活性化に大きく貢献することもあります。ともすると、地域は予定調和的な停滞傾向に陥り、活力を失う方向に進みがちになります。その中で、若い世代が新しいアイデアで、ボランティアに地域貢献活動をすることが、その停滞傾向を打破し、また学生たちの健気で真摯な態度は、地域の大人たちへのエンパワーメントにもつながります。

大学そして教職員は、地域とのつなぎ役となり、こうした学生たちに寄り添い、実践力向上や地域の活性化へと導き、成果を出す大事な役割を担っています。

なぜ学生が商店街を活性化できたのか

名古屋学院大学の愛知県瀬戸市での商店街活性化活動(2001年から2006年まで)では、シャッター通りであった地域商店街(銀座通り商店街)に人通りが復活、空き店舗も埋まり、学生による商店街活性化の成功事例として全国から数多く視察団体が訪れるようになりました。そして2006年には、商店街と大学との連携事業が評価され、全国1万を超える商店街の中から、経済産業省「がんばる商店街77選」に選定されるまでになりました。

名古屋市熱田区での活動(2007年から現在)でも、地元の日比野商店街での活性化事業による商店街組合員の倍増などの成果が評価され、2010年には「愛知県活性化モデル商店街」に認定されました。また、2013年3月に発行された全国商店街振興組合連合会『商店街の可能性を目指して』の中で、10の活性商店街事例が掲載されており、当該商店街が「商学連携」のモデル事例として紹介されています。

こうした成果を実績に、2007年度には、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」、2013年度には、「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受けました。

商店街を視察に来られる団体から「なぜ学生が商店街を活性化できたのか」という質問を頂くことが少なからずあります。その多くは「学生にそんなことができるはずはない。」というような懐疑的な質問でもあります。こうした質問に対して私は「数多くの新聞、テレビ等のマスメディアへの露出、いわゆるパブリシティが活性化への「期待」を地域に浸透させ、それによって商店街にバンドワゴン効果と呼び起こしたことが、この結果を導いた最大の要因です。」と説明しています。

瀬戸では、2002年のコミュニティカフェ「マイルポスト」のオープン時には、地元の主要な新聞社およびテレビ局からの取材を受け、瀬戸はもちろん、名古屋圏にまでその情報は発信されました。こうしたパブリシティにより、地元の人々はもちろん多くの観光客の方を商店街は迎えることになりました。

名古屋学院大学の学生による地域連携事業には、社会問題をビジネスによって解決を図るソーシャルビジネスをコア事業に位置付けています。ここでは、PBL型授業などを通じて毎年新しいメンバーと一緒に、社会性・新規性のある事業を目指しているため、結果的にそれが次々とマスメディアに取り上げられ、これらもパブリシティとなっていきました。また、学生という若さや期待、そして商店街とは異質の存在だけにその面白さも加わり、これらのパブリシティは徐々に地域に活性化への「期待」醸成につながっていきました。

また、商店街店舗の中には、イートイン設備を導入する店舗や飲食店に業態を変える店舗まで現れるようになりました。マスメディアが大々的に報じるようになると、商店街を中心に次々と飲食店舗などが空き店舗などに新規オープンし始め、2004年ごろには活動前の倍以上の飲食店が軒を並べるまでになりました。

さらに、学生たちの活動に刺激を受けた商店街では、新規イベントや「一店逸品活動」などさまざまな事業も推進していきました。このようにして活性化への「期待」は、新規出店ラッシュや来客者数の

増加を生み出しました。

このように、学生のバイタリティーや社会性および新規性のある様々なプロジェクト、そしてそれに呼応する形で生まれる商店街の活動が実体経済に好影響を与えるとともに、数多くのパブリシティが地域活性化への「期待」醸成となり、それがバンドワゴン効果につながっていくのです。

教育的成果

名古屋学院大学の現代GP「『地域創成プログラム』の実践」(2007~2009)では、「地域を理解し、共生・創造できる市民」を目標とすべき人物像として掲げました。そして、PBL型授業や社会貢献型サークル活動を通して「社会人基礎力」の向上をめざしました。

社会人基礎力とは、考え抜く力(シンキング)、チームワークで働く力(チームワーク)、前に踏み出す力(アクション)の3つの能力から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱している概念です。

ここでは、考え抜く力について「問題解決力」「企画力」、チームワークで働く力について「思いやり・助け合うことの大切さ」「コミュニケーション能力」、前に踏み出す力について「実行力・行動力」「社会への関心」を代理変数にして、活動を通じて何を学んだかを調査しました(2009年度実施)。

社会貢献型サークルでは、思いやり・助け合うことの大切さが非常に高まったとの回答が多く、主体的な活動のよさがチームワーク力を高める形として表れたといえます。

一方、PBL型授業では、座学で学んだことを実践し、活動後ていねいに振り返りを行っているので、社会への関心が高くなっています。また、コミュニケーション力が高まったと答える学生が多く、これは、プレゼン等説明する機会が多いためと思われる。

地域連携を支える大学の仕組み作り

「地域が学生を育て、学生が地域を元気にする」地域連携活動を行うためには、実践教育と地域活性化が両立できるような体制作りが大切です。一教員の個人プレーでは成果を出すことは容易ではありません。

そこで以下の課題を解決することで、それを実現させる仕組みづくりを行いました。

- ①実践教育プログラムと課外活動との連携
- ②地域連携に関わる学内組織の確立→地域連携センターの設立
- ③地域連携を推進する「大義名分」→地域連携協定の締結
- ④地域連携事業の予算→文部科学省補助金の獲得

おわりに

最後に、学生による地域連携活動を行ううえでいくつか留意事項について述べます。

- ①活動の意義を学生に考えさせる
- ②成功体験が実践力や活性化の源になる
- ③地域とはWin-Winな関係から信頼関係へ
- ④学生の失敗は学生の責任にしない
- ⑤学生の主体性を尊重し、学生を消費しない

例会のご案内

■今週の行事 9月26日(木) RACとの合同例会

場 所：ヒルトン名古屋5階「銀扇の間」
時 間：19:00~20:30

■次週の卓話 10月3日(木)

卓話講師：岐阜美濃倶楽部所属ドラコンプロ
安楽拓也さん
内 容：飛ばすなら今でしょ!

■次々週予定 10月10日(木)

内 容：ランチコンサート
～オーボエとピアノの音色～
演 奏：セントラル愛知交響楽団
オーボエ奏者 安原太武郎さん
事務局長 山田愛子さん